



電話

- [CcmcipServer1](#) (1 ページ)
- [CcmcipServer2](#) (2 ページ)
- [CtiServer1](#) (2 ページ)
- [CtiServer2](#) (2 ページ)
- [E911EdgeLocationWhiteList](#) (2 ページ)
- [E911NotificationURL](#) (3 ページ)
- [EnableCallPark](#) (3 ページ)
- [EnableDSCPPacketMarking](#) (4 ページ)
- [EnableE911EdgeLocationPolicy](#) (4 ページ)
- [EnableE911OnPremLocationPolicy](#) (4 ページ)
- [EnableNGEPolicy](#) (5 ページ)
- [LocalAuthenticationWithBiometrics](#) (5 ページ)
- [MakeCallHotKey](#) (6 ページ)
- [Meeting_Server_Address](#) (6 ページ)
- [Meeting_Server_Address_Backup](#) (6 ページ)
- [Meeting_Server_Address_Backup2](#) (7 ページ)
- [TftpServer1](#) (7 ページ)
- [TftpServer2](#) (7 ページ)
- [useCUCMGroupForCti](#) (7 ページ)
- [UseSIPforMobiles](#) (8 ページ)

CcmcipServer1

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。
プライマリ CCMCIP サーバのアドレスを指定します。
このパラメータは、次の場合に必須です。

- CCMCIP サーバのアドレスが TFTP サーバのアドレスと異なる場合のみ。

CCMCIP サーバのアドレスが TFTP サーバのアドレスと同じ場合、クライアントは CCMCIP サーバに接続するために TFTP サーバのアドレスを使用できます。

- Cisco Unified Communications Manager リリース 8 を使用した展開。

Cisco Unified Communications Manager リリース 9 以降を使用した展開では、`_cisco-uds` SRV レコードがプロビジョニングされていれば、クライアントが CCMCIP サーバを検出できます。

Cisco Unified Communications Manager リリース 9.x 以前：Cisco Extension Mobility を有効にする場合は、CCMCIP に使用される Cisco Unified Communications Manager ノードで Cisco Extension Mobility サービスをアクティブにする必要があります。Cisco Extension Mobility の詳細については、使用している Cisco Unified Communications Manager のリリースに応じた『機能およびサービス』ガイドを参照してください。例：`<CcmcipServer1>server_address</CcmcipServer1>`

CcmcipServer2

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

セカンダリ CCMCIP サーバのアドレスを指定します。

例：`<CcmcipServer2>server_address</CcmcipServer2>`

CtiServer1

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

プライマリ CTI サーバのアドレスを指定します。

ユーザがデスクフォン デバイスを所有している場合は、クライアントの設定で CTI サーバアドレスを指定する必要があります。

例：`<CtiServer1>server_address</CtiServer1>`

CtiServer2

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

セカンダリ CTI サーバのアドレスを指定します。

例：`<CtiServer2>server_address</CtiServer2>`

E911EdgeLocationWhiteList

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

セミコロンで区切られた最大 30 のサービスセット ID (SSID) のホワイトリストを指定します。

E911EdgeLocationPolicy パラメータが true に設定されている場合は、このパラメータを必ず構成してください。その後クライアントは、モバイルおよびリモート アクセス ネットワーク向けの Expressway を介して企業のネットワークに接続するユーザを監視します。

例：

```
<EnableE911EdgeLocationPolicy>true</EnableE911EdgeLocationPolicy>  
<E911EdgeLocationWhiteList>SSID1;SSID2 </E911EdgeLocationWhiteList>
```

E911NotificationURL

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

この機能は、完全 UC モードまたはモード携帯電話のみで利用可能です。IM 専用モードの展開では使用できません。

前提条件：telephony_enabled パラメータを true に設定しておく必要があります。

Jabber にログインするたびに、カスタマイズ可能な免責事項に関するメッセージまたは通知がユーザーに表示されます。テレフォニー機能を有効にする前にユーザーはこれに同意する必要があります。このプロンプトにより、ユーザーは免責事項または通知を確認できます。

このパラメータの値を、通知メッセージをホストしている有効な HTML Web ページの URL に設定します。

例：

```
<E911NotificationURL>http://www.example.com/e911.html</E911NotificationURL>
```

企業ネットワークの外部で稼働するすべての Jabber クライアントで Web ページが正しく表示されるようにするには、スクリプトおよびリンク タグが E911NotificationURL パラメータでサポートされていないため、Web ページに静的な HTML ページを指定する必要があります。

EnableCallPark

すべてのクライアントに適用されます。

クライアントでコールパーク機能を使用できるかどうかを指定します。コールパーク機能にアクセスするには、コール ウィンドウで [その他 (More)] オプションを選択します。

- true (デフォルト) : コールパークが有効です。
- false : コールパークが無効です。コールパーク オプションが [詳細 (More)] ボタンの下に表示されません。

例：<EnableCallPark>>false</EnableCallPark>

EnableDSCPpacketMarking

Mac 版 Cisco Jabber およびモバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

EnableDSCPpacketMarking がこれらの値のいずれかで設定されている場合、Cisco Jabber クライアントの [コールのDiffServを有効化する (Enable Differentiated Service for Calls)] オプションは表示されません。

DSCP マーキングがパケットに適用されるかどうか指定します。

- true (デフォルト) : DSCP マーキングが有効になり、クライアント内のチェックボックスは表示されません。
- false : DSCP マーキングはパケットに対して実行されず、クライアント内のチェックボックスは表示されません。

例 : <EnableDSCPpacketMarking>false</EnableDSCPpacketMarking>

EnableE911EdgeLocationPolicy

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

ユーザがモバイルおよびリモートアクセス向け Expressway を介して企業のネットワークに接続するときに、クライアントがワイヤレス ロケーション モニタリングを使用することを指定します。

- true : Cisco Jabber がワイヤレスロケーションを監視します。
また、サービスセット ID (SSID) を使用して、E911EdgeLocationWhiteList パラメータを構成する必要があります。セミコロンで区切られた最大 30 の SSID のリストを構成できます。
- false (デフォルト) : Cisco Jabber はワイヤレスロケーションを監視しません。

例 :

```
<EnableE911EdgeLocationPolicy>true</EnableE911EdgeLocationPolicy>  
<E911EdgeLocationWhiteList>SSID1;SSID2</E911EdgeLocationWhiteList>
```

EnableE911OnPremLocationPolicy

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

クライアントがオンプレミス展開でワイヤレス ロケーション モニタリング サービスを使用することを指定します。

- true : Cisco Jabber がワイヤレスロケーションを監視します。

- **false** (デフォルト) : Cisco Jabber はワイヤレスロケーションを監視しません。

例 :

```
<EnableE911OnPremLocationPolicy>true</EnableE911OnPremLocationPolicy>
```

EnableNGEPolicy

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

メディアが次世代の暗号化ポリシー (AES256-GCM など) で暗号化されるかどうかを指定します。

このパラメータは、次の 4 つの値のいずれかで構成できます。

- **eNever** : メディアは次世代の暗号化ポリシーで暗号化されません。
- **eOnPremOnly** (デフォルト) : メディアはオンプレミスネットワークの次世代暗号化ポリシーで暗号化されます。
- **eEdgeOnly** : メディアは Expressway ネットワークの次世代暗号化ポリシーで暗号化されます。
- **eAlways** : メディアは常に次世代の暗号化ポリシーで暗号化されます。

例 : `<EnableNGEPolicy>eOnPremOnly</EnableNGEPolicy>`

LocalAuthenticationWithBiometrics

モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

Cisco Jabber が Jabber にサインインするために、ユーザーデバイスで指紋認証または顔認識を使用するかどうかを指定します。

次のいずれかの値を使用して、このパラメータを構成できます。

- **AdminEnabled** : Cisco Jabber は、指紋または顔認識を使用して認証するようにユーザーに促します。ユーザーは、生体認証を使用して Cisco Jabber にサインインするか、サインインするたびにログイン情報を入力する必要があります。
- **UserDecision** (デフォルト) : Cisco Jabber は、指紋または顔認識指紋、または顔認識による認証を使用して認証するようにユーザーに促します。ユーザーは、生体認証を使用して Cisco Jabber にサインインするかどうかを決めることができます。
- **AdminDisabled** : Cisco Jabber は、指紋または顔認識による認証を使用しません。ユーザーにプロンプトは表示されません。

認証が失敗した場合、Cisco Jabber は、ユーザーがサインインするたびにログイン情報を入力するように求めます。

例 : `<LocalAuthenticationWithBiometrics>AdminDisabled</LocalAuthenticationWithBiometrics>`

MakeCallHotKey

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントでキーボードショートカットを定義するキーの組み合わせを指定します。ショートカットを使用すると、ユーザーは別のアプリケーションからテキストをコピーして、クライアントに貼り付けることができます。キーの組み合わせを構成すると、そのキーボードショートカットで別のアプリケーションが行う操作が上書きされます。

- true (デフォルト) : クリックツーコールを行うためのキーボードショートカットとして CTRL+SHIFT+J が有効になっています。
- false : キーボードショートカットは無効です。
- specify your own keyboard shortcut : このパラメータの値として別のキーボードショートカットを指定します (MakeCallHotKey =CTRL+SHIFT+R など)。独自に定義したキーボードショートカットでは、CTRL および [SHIFT または ALT (両方ではない)]+ 文字、または CTRL + 文字を使用できます。

例 : <MakeCallHotKey>false</MakeCallHotKey>

Meeting_Server_Address

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーのプライマリ Cisco Webex Meetings サイト URL を指定します。

Windows 版 Cisco Jabber クライアントは、この会議サイトを [オプション (Options)] ウィンドウのユーザーのホストアカウントに入力します。Mac 版 Cisco Jabber クライアントは、この会議サイトを [設定 (Preferences)] > [会議 (Meetings)] ウィンドウのユーザーのホストアカウントに入力します。会議サイトにログイン情報が必要な場合、ユーザーは自分のログイン情報を入力してホストアカウントをセットアップし、自分の Webex Meetings にアクセスできます。



重要 無効な会議サイトを指定すると、ユーザはクライアント ユーザ インターフェイスで会議サイトを追加または編集できません。

例 : <Meeting_Server_Address>Meeting_Site_URL</Meeting_Server_Address>

Meeting_Server_Address_Backup

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

ユーザーのセカンダリ Cisco Webex Meetings サイト URL を指定します。

例 : <Meeting_Server_Address_Backup>meeting_site_URL</Meeting_Server_Address_Backup>

Meeting_Server_Address_Backup2

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

ユーザーのターシャリ Cisco Webex Meetings サイト URL を指定します。

例 : <Meeting_Server_Address2>meeting_site_URL</Meeting_Server_Address2>

TftpServer1

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

デバイス構成ファイルがあるプライマリの Cisco Unified Communications Manager TFTP サービスのアドレスを指定します。値として次のいずれかを設定します。

- ホスト名 (*hostname*)
- IP アドレス (*123.45.254.1*)
- FQDN (*hostname.domain.com*)

このパラメータは、次の場合にのみクライアント構成で設定する必要があります。

- 電話機モードでクライアントを展開する場合。
- デバイス構成の TFTP サーバーアドレスは、クライアント構成の TFTP サーバアドレスと異なります。

インストール時に、引数 TFTP を使用してクライアント構成ファイルが配置される TFTP サーバーのアドレスを設定する必要があります。

例 : <TftpServer1>hostname</TftpServer1>

TftpServer2

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

セカンダリの Cisco Unified Communications Manager TFTP サービスのアドレスを指定します。

例 : <TftpServer2>hostname</TftpServer2>

useCUCMGroupForCti

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

Cisco Unified Communications Manager グループが CTI サーバーのロードバランシングを処理するかどうかを指定します。次のいずれかの値を設定します。

- **true** : Cisco Unified Communications Manager グループが CTI ロードバランシングを処理します。この値は、電話機モードの展開でのみ設定する必要があります。フル UC モードでは、プレゼンス サーバが CTI ロードバランシングを自動的に処理します。
- **false** (デフォルト) : Cisco Unified Communications Manager グループが CTI ロードバランシングを処理しません。

例 : `<useCUCMGroupForCti>true</useCUCMGroupForCti>`

UseSIPforMobiles

モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

同じドメインにある場合でも、SIP URI が常に表示されるように指定します。

- **true** : 同じドメインであっても、常に SIP URI を表示します。
- **false** (デフォルト) : 同じドメインの場合はドメイン名を表示し、異なるドメインの場合は SIP URI を表示します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。